

「日本博」 参画型事業候補一覧（平成31年2月28日時点）

資料 5

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流ー日本美を伝えるー」	2019年 3月～4月	東京都 東京国立博物館 本館特別5室	東京国立博物館・宮内庁・文化庁・読売新聞社	<p>本展は、宮内庁が所管する皇室ゆかりの作品の中から、天皇皇后両陛下が外国御訪問の際にお持ちになって紹介された作品などを展示する。両陛下がお伝えになった日本文化を通して、海外の様々な人々が、わが国への理解と交流を深めてきたことを踏まえ、御即位30年という記念すべき年に、両陛下が担われた文化交流についてご紹介する。</p> <p>◆主な作品： 悠紀地方風俗歌屏風(東山魁夷)、主基地方風俗歌屏風(高山辰雄)、養蚕天女(高村光雲作；大正13年(1924))、花鳥十二か月図(酒井抱一)、小栗判官絵巻(岩佐又兵衛)：宮内庁三の丸尚蔵館蔵</p> <p>※皇室ゆかりの優品や国宝・重要文化財をはじめとする日本の美を海外へ、さらに未来に紡ぐために、文化庁、宮内庁、読売新聞社が協力して進める「紡ぐプロジェクト」</p> <p>※関連シンポジウムを実施（3月28日：東京）</p>
美術・文化財	特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品ー雪舟、永徳から光琳、北斎までー」	2019年 5月～6月	東京都 東京国立博物館 本館特別5室	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社	<p>前述の「紡ぐプロジェクト」の一環として、皇室ゆかりの名品を、新たな時代の幕開けを祝して宮内庁三の丸尚蔵館、文化庁、東京国立博物館所蔵の絵画、書跡、工芸の名品を展示する。絵画は雪舟筆の国宝秋冬山水図、狩野永徳筆の国宝檜図屏風、同じく永徳筆の唐獅子図屏風、尾形光琳筆の重要文化財八橋図、葛飾北斎筆の西瓜図。書跡は藤原定家筆の更級日記、工芸は仁清の色絵若松図茶壺などの名品総数20件（途中展示替えあり）。</p>

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	特別展「国宝 東寺－空海と仏像曼荼羅」	2019年 3月～6月	東京都 東京国立博物館 平成館1～4室	東京国立博物館、真言宗総本山教王護国寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション	空海が嵯峨天皇から東寺を賜わり、真言宗を創立したのが弘仁14年（823）のことである。2023年に立教開宗1200年を迎えることを記念して、東寺に伝来した密教美術の名品を展示する。東寺講堂は空海の構想によって仏像が安置された。五智如来、五菩薩、五大明王、四天王、梵天・帝釈天あわせて21体の仏像で立体的な曼荼羅の構成。展示室に五穀豊穡、国家安泰、世界平和を祈る後七日御修法(ごしちにちみしほ)の道場を再現する。このほか国宝31件、重要文化財60件を含む110件で構成する。
美術・文化財	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」（仮称）	2019年 6月～9月	東京都 東京国立博物館 本館11室	東京国立博物館	奈良県中東部に位置する岡寺、安倍文殊院、長谷寺、室生寺の仏像を常設展のスペースに展示する。自主企画として平常展の活性化、入場者増加を狙うものである。女人高野として知られる室生寺の十一面観音立像、同釈迦如来坐像、岡寺の義淵僧正坐像の3件は国宝である。当館の彫刻の平常展で国宝が複数並ぶのは20年ぶり、3件並ぶのは十年ぶりである。このほか、重要文化財9件を含む13件の仏像を展示し、寺院紹介パネルを掲示する。
美術・文化財	特集「親と子のギャラリー ツノをもつ動物」（仮称）	2019年 4月16日～5月26日	東京都 東京国立博物館 平成館企画展示室	東京国立博物館	日本古来より美術工芸作品のモチーフとされたシカやウシなどの実在の動物に加えて、龍や麒麟などの空想上のツノのある動物を対象とした作品を一同に公開する。日本人と動物の多様な関係を文化史的に明らかにする展示とする。実在する動物と人間が想像した空想の動物を織り交ぜながら、人間と動物の多様な関係を視覚的な工夫も行い分かりやすいものとする。また子どもへの理解を促すため、国立科学博物館、上野動物園の協力を得て、実物展示や補助的な解説パネルの作成を行うほか、作品名称を列品名と子ども用の名称を併記する。会期中に国立科学博物館、上野動物園との連携によるツアーを実施する。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	日本書紀成立1300年記念 特別展「出雲と大和」	2020年 1月～3月	東京都 東京国立博物館 平成館	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、島根県、奈良県	2020年は、『日本書紀』編纂1300年記念の年である。その冒頭で、神々の祭祀の世界「幽」と、現実世界「顕」によって日本が成立すると述べ、「幽」は出雲大社に鎮座するオオクニヌシが、「顕」は大和の天皇が司るとされる。島根県と奈良県の共催で日本の国の成り立ちを目の当たりにできる展覧会である。 出雲大社の巨大な本殿に使われた心御柱と宇豆柱が揃って出雲を出て展示されるのは初めてである。弥生時代の祭祀にかかわる荒神谷遺跡の青銅器、大和王権の成立を示す大型古墳の出土品、藤ノ木古墳出土品や唐から招かれ、唐招提寺を開いた鑑真にかかわる仏像など古代日本の代表的作品が集まる。
美術・文化財	特集企画 日本の四季関連プログラム博物館に初もうで	2020年 1月	東京都 東京国立博物館 本館	東京国立博物館	干支（子）にちなんだ作品や正月にふさわしい吉祥を表した作品を展示、また、当館でも特に人気の高い作品を展示する。また、獅子舞、和太鼓などの上演も実施し、博物館でお正月らしさを感じていただく。能の「翁」「高砂」を上演する。
美術・文化財	特集企画 日本の四季関連プログラム博物館でお花見を	2020年 3月～4月	東京都 東京国立博物館 本館	東京国立博物館	桜の下で舞う人など、お花見を楽しむ人々が描かれる「花下遊楽図屏風」（国宝）をはじめ、桜に関連する作品を展示。花見にちなんだ句会、コンサートなどの多くのプログラムも実施する。能の「嵐山」「西行桜」を上演する。
美術・文化財	特集企画 日本の四季関連プログラム博物館で夕涼み（仮称）	2020年 7月～8月	東京都 東京国立博物館 本館	東京国立博物館	暑さも和らいできた夕暮れに戸外で涼をとるのが夕涼みであるが、冷房がいきわたった現代では生活習慣から抜け落ちてきているようである。日本ののどかな習慣を、文化財などをおして再認識していただく。夕顔棚の下でくつろぐ家族を描いた久隅守景筆「納涼図屏風」（国宝）、「葵上」の六条御息所の生霊を描いた上村松園筆「焰」（重要文化財）をはじめ、夏にふさわしい作品を展示。ビアガーデンを設置し、プログラムも実施する。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	特集企画 日本の四季関連プログラム 博物館で初もうで	2021年 1月	東京都 東京国立博物館 本館	東京国立博物館	新年を迎え、その年の干支に関わる作品、おめでたい題材の作品として、干支（丑）にちなんだ作品や正月にふさわしい吉祥を表した作品を展示、また、特に人気の高い作品を展示する。また、獅子舞、和太鼓などの上演も実施し、博物館でお正月らしさを感じていただく。能の「三番叟」を上演する。
美術・文化財	特集企画 日本の四季関連プログラム 博物館でお花見を	2021年 3月～4月	東京都 東京国立博物館 本館	東京国立博物館	桜の下で舞う人など、お花見を楽しむ人々が描かれる「花下遊楽図屏風」（国宝）、「吉野山図屏風」をはじめ、桜に関連する作品を展示。花見にちなんだ句会、コンサートなどの多くのプログラムも実施する。能の「嵐山」、狂言「猿婿」を上演する。
美術・文化財	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」	2019年 4月13日～6 月9日	京都府 京都国立博物館 平成知新館	京都国立博物館、朝日新聞社	<ul style="list-style-type: none"> ・時宗の二祖真教の七百年遠忌を記念して、時宗の成立と展開を宗派内外が所蔵する美術品、歴史資料等で通覧する展覧会。時宗総本山清浄光寺が所蔵する国宝「一遍聖絵」を一挙公開するのをはじめ、時宗の名宝を一堂にする（鎌倉時代後期を代表する祖師絵伝である国宝「一遍聖絵」12巻を全巻展示）。一遍聖絵は中世日本人の信仰が自然と対峙する中で形成されたことを端的に示す。 ・鎌倉時代の阿弥陀信仰の展開から、初祖一遍による時宗の活動、さらに二祖真教以降の宗派の発展と継承の様子を、仏像、仏画、祖師像、祖師絵伝、歴史資料など、同宗派内外が所蔵する宝物類で展覧する。
美術・文化財	特別企画「ICOM京都大会開催記念特別企画 京博寄託の名宝－美を守り、美を伝える－」	2019年 8月13日～9 月16日	京都府 京都国立博物館 平成知新館	京都国立博物館	京都で開催されるICOMのメインテーマ「文化をつなぐミュージアム」に併せて、京都を中心とした近隣の社寺などの国宝・重要文化財などの宝物類を数多く寄託保管、調査研究している京都国立博物館の使命を再確認し、寄託作品の名品を一堂に紹介する展覧会。名品を一堂に展覧することで、日本の伝統的・文化的価値が人々の精神活動や自然への眼差しを基礎としていることが理解できる特別企画とする。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	夏期講座「日本人と自然」 （仮称）	2019年 7月	京都府 京都国立博物館 平成知新館講堂	京都国立博物館	例年夏に開催している夏期講座を、2019年、2020年は日本博2020のテーマに沿って連続講座として開催する。講師、講演内容等、未定。
美術・文化財	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展一曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」	2019年 4月13日～6 月9日	奈良県 奈良国立博物館 東新館及び西新館	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿	藤田美術館（大阪市）は国宝9件、重要文化財53件を含む東洋・日本美術の名品を所蔵する美術館である。コレクションを集めた藤田傳三郎は日本の自然を愛し、日本美における自然描写の卓越さに早くから気づいた人物であった。この展覧会は国宝・曜変天目茶碗、仏教美術の名品のほか、花鳥画や水墨画、絵巻など自然を描いた作品を展示する。
美術・文化財	「MOMATコレクション－近代日本美術にみる自然の美」 （仮称）	2019年4月～ 12月	東京都 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館	日本画、洋画、版画など各分野にわたる充実した所蔵作品から会期ごとに日本の美の優品をセレクトし、日本の近代美術の流れを海外作品も交えて紹介する。国内美術館・博物館で初となる、外国人に向けた英語による体験型鑑賞プログラムを実施する。また、展覧会連動プログラムとして春まつりやサマーフェスを実施する。
美術・文化財	美術館の春まつり 2019	2019年3月～ 4月	東京都 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館	地域最大の企画「千代田のさくらまつり」と連動し、桜を描いた名画「行く春」（重要文化財）をはじめ春にちなんだ作品を華やかに特集展示する。ガイドプログラム「春まつりトークラリー」や前提にお花見弁当他特別メニュー販売、オリジナル商品販売を行い美術館の春祭りを演出する。国内で初となる、訪日外国人向けの英語による体験型鑑賞プログラムを開発・提供。日本の春を楽しむ機会を提供する。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	「The 備前一土と炎から生まれる造形美」	2019年 2月22日～5月6日	東京都 東京国立近代美術館 東京国立近代美術館工芸館	東京国立近代美術館 NHK NHKプロモーション	日本の風土が育み、古くから日本人に愛されてきた備前焼に焦点をあてた展覧会。桃山時代以降の名品、近代作家の優品、現代作家の最新作まで、その歴史を通して紹介し、土と炎の造形といわれる備前焼の魅力を探る。展覧会では、桃山時代に茶人・数寄者によって見立てられた古備前の名品から、その古備前に魅せられ作陶に取り組んできた近代の作家、さらに先達から受け継いだ技術を生かして現代の備前焼を確立しようとしている若手の最新作まで、重要無形文化財保持者の作品も交えて幅広く紹介し、多彩な表現を生む備前焼の魅力を探る。
美術・文化財	「イメージコレクター・杉浦非水展」	2019年 2月9日～5月26日	東京都 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館	日本のグラフィックデザイン創成期に重要な役割を果たした図案家の杉浦非水について、ポスターや、装丁、動植物を描いたスケッチなど、初公開の作家旧蔵資料を中心に紹介し、近代の日本における図案の意義と知られざる図案創作のプロセスを探る。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	「こどもたちからの挑戦状－自然が育んだ日本的感性の味わい」（仮称）	2019年 7月13日～9月1日	東京都 東京国立近代美術館工芸館	東京国立近代美術館	<p>豊かな風土がもたらす多種多様な素材と、四季折々に移ろう自然が育んだ美意識の粋ともいえる工芸を未来の担い手である子どもたちとともに味わいながら、今日、世界が注目する日本的美の諸相を検証する。子どもたちが自身のものの見方に自信を深めながら関心を高めるとともに、大人にとっても、わが国の工芸に体现されてきた豊かな自然感やすぐれた美意識を再確認するきっかけとなることを期待。</p> <p><関連プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和絵と超絶技巧の融合。世界が憧れたマクズウェア、初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》（制作1871-82年頃）に体现された自然と情趣。 ・自然をさらに美意識で磨き上げた生野祥雲齋《白竹一重切華入くいな笛》（制作1967年）。 ・赤と黒の漆の艶が目も心も惹きつけた赤地友哉《曲輪造彩紅盛器》（制作1960年）。 ・「宇宙ステーションみたい」一植物文様が見せた壮大なスケール！《色絵金銀彩羊歯文八角飾箱》（制作1959年）。
美術・文化財	「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション－メトロポリタン美術館所蔵」	2019年 9月13日～12月8日	東京都 東京国立近代美術館工芸館	東京国立近代美術館 NHK NHKプロモーション	<p>日本工芸に対する国際的な再認識とともに、竹工芸特有の美しさと表現形態は世界的に注目を集めている。なかでもニューヨークのアビー夫妻が長年収集してきた日本の竹工芸は「アビー・コレクション」として知られ、メトロポリタン美術館への寄贈を記念した2017年の展覧会では、40万人以上を動員し大きな話題を呼んだ。本展は、ニューヨークのアビー夫妻が「アビー・コレクション」として長年集めた日本の竹工芸を日本で初めて紹介する里帰り展で、工芸館所蔵の作品と併せて、日本の自然と美意識によって育まれた、竹という素材の持つ自由な造形美の魅力を紹介。</p>

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	「京都の染織 1960年代から今日まで」	2019年 3月8日～4月 14日	京都府 京都国立近代 美術館	京都国立近代 美術館	日本の美意識と自然と密接な染織の展覧会。京都では、平安の都より雅の世界と結びついた染織の世界が連綿と続き、それらは各時代に合った、あるいは時代を反映された染織は、京都ならではの技術と生産体制が確立していった。この様な長い歴史と伝統を持つ京都にあって戦後の染織作品の変遷はなかなか紹介されてこなかったが、本展覧会では、第2次世界大戦後、1960年代から現在までの京都の染織の変遷、現代まで結びついた「伝統と革新」のなかでの染織の世界を紹介。
美術・文化財	「川勝コレクション 鍾溪窯・河井寛次郎」	2019年 4月26日～6 月2日	京都府 京都国立近代 美術館	京都国立近代 美術館 京都新聞社	本展では、陶芸家・河井寛次郎の初期から晩年にいたるまでの代表的な作品を網羅した川勝コレクションより名品約250点を一堂に展示。また、交流のあった濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉らの作品を併せて紹介する。 ※河井寛次郎：1914年東京高等工業学校窯業科を卒業、1920年京都五条坂に鍾溪窯を築いて独立。1925年頃から古民芸品の美に目ざめ、民藝運動を起こした。第2次世界大戦後は、機械製作と手仕事の融合、泥刷毛目の手法、三彩打薬などを工夫。主要作品『青磁せん血文花へい（せいじせんけつもんかへい）』（1924）、『鉄絵辰砂（しんしゃ）草花丸文壺』（1937年パリ万国博覧会でグランプリ受賞）、『花文菱形扁壺』（1957年ミラノのトリエンナーレでグランプリ受賞）
美術・文化財	「林忠正－ジャポニズムを支えたパリの美術商」	2019年 2月19日～5 月19日	東京都 国立西洋美術 館	国立西洋美術 館	西洋で日本美術を商った初めての日本人である林忠正に焦点を当て、万国博覧会とのかかわりや日本と西洋の美術・工芸品を介して培われた交友、コレクションが辿った運命に注目し、林忠正の生涯に渡る活動を概観する。 Ⅰ. 修行時代－西洋との出会い Ⅱ. 画商として－万国博覧会の時代 Ⅲ. 華麗なる交友－ジャポニズムの拡がり Ⅳ. コレクションの行方の4章で構成する。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
美術・文化財	「松方コレクション展」	2019年 6月11日～9 月23日	東京都 国立西洋美術 館	国立西洋美術 館 NHK NHKプロモー ション 読売新聞社	国立西洋美術館の開館60周年を記念し、同館のコレクションの礎を築いた実業家、神戸の川崎造船所（現・川崎重工業）の初代社長などを務めた松方幸次郎（1866-1950）に焦点をあて、コレクションの形成と散逸、国立西洋美術館が設立されるにいたる過程を、自邸の日本風の蓮池をモチーフとして、様々に変化する自然の姿を表現したモネの《睡蓮》などの美術作品や歴史的資料計約160点で概観するものである。
美術・文化財	「ジャコメッティと日本人哲学者はパリに何をもたらしたか」（仮称）	2019年 5月～8月	大阪府 国立国際美術 館	国立国際美術 館	20世紀を代表する美術作家であるジャコメッティが制作上の問題を抱えていた時期に、日本の哲学者矢内原伊作との出会いにより困難を乗り越え、その苦悩を結晶化させた作品により両者の関係性を紹介する。作家晩年の代表作ともなっている。日本とフランスの優れた知性と卓越した芸術が出会い、6年にも及ぶ期間、作家とモデルとして築き上げた関係性を《ヤナイハラ1》という彫像作品、当時のメモ等を合わせて紹介する。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
生活文化・文芸・音楽	日本館春祭り	①2019/3/3～3/31 ②2019/3/3、8 ③2019/3/3、9、10、22、25 ④2019/3/3（前後数日間） ⑤2019/3/3 ⑥2019年3月毎週末 ⑦2019年3月18 （各日程は予定）	東京都 国立科学博物館日本館中央ホール 日本館講堂 地球館講義室 シアター36〇	国立科学博物館 台東区	<p>【日本館中央ホールで実施予定】</p> ①「桜～貴重標本資料特別公開」（仮称） 植物画を特別公開 ②「盆石の実演及び展示」（仮称） 日本古来の縮景芸術のひとつである「盆石」の実演及び体験展示 ③「観桜茶会」（仮称） 中央ホールに野点を設置し、茶会や和楽器（琴、尺八）の演奏会を行い、日本の文化を体感してもらう ④「日本博開幕記念マッピング 桜舞い散る春絵巻」（仮称） 中央ホールにバナーを吊るし、桜の映像投影を行う。 <p>【日本館講堂で実施予定】</p> ⑤「来て見て体験 伝統工芸」（仮称） 伝統工芸の作業手法を体験できる体験コーナーを設け、合わせて関連物品の陳列、解説パネルの設置を行う。 <p>【地球館講義室で実施予定】</p> ⑥【日本博記念】ディスカバリートーク（仮称） 研究者によるトークレクチャー（3/3桜を予定。以降、毎週末実施予定） <p>【シアター36〇】</p> ⑦日本博開幕記念上映（仮称） 改修中のシアター36〇のリニューアルオープンを春祭り期間に行う。
食文化・自然	「100年前の東京と自然～プラントハンター・ウィルソンの写真から」（仮称）	2019年 4月13日～6 月16日	東京都 国立科学博物館 日本館B1多目的室 地球館オープンスペース	国立科学博物館	イギリス出身の植物学者アーネスト・ヘンリー・ウィルソン（1876～1930）は、日本の桜やツツジを西欧に広め、わが国の植物学の発展に大きく貢献した人物である。ウィルソンは、近代化により変貌を遂げる前の日本の自然風景をカメラに収めていた。これらの写真は、当時の日本における植物や植生などの自然風景を今に伝える貴重な記録であり、本展では、撮影地の現在を写した写真と対比することによって、東京の自然の移り変わりを解説していく。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
食文化・自然	「日本人が育んだサクラソウ園芸品種の文化史」（仮称）	2019年 4月6日～14日	東京都 国立科学博物館 （芝地）	国立科学博物館 筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター	サクラソウについては、野生種の栽培と鑑賞は室町時代に京都の宮廷文化で始まり、江戸時代に多くの園芸品種が作出された。一方、その育種過程の詳細は不明であったが、最近の遺伝子解析から園芸品種の起源となった集団が明らかになっている。今回の展示ではサクラソウの園芸品種を通して、日本人が野生の植物がもつ様々な遺伝的特性に気づき愛でてきた歴史があることを伝えることを目的とする。
舞台芸術	歌舞伎『元禄忠臣蔵一御浜御殿綱豊卿一』『積恋雪関扉』 ※演目に合わせ、大塚オーミ陶業株式会社制作「おぼろ」の陶板による高精細レプリカを展示	2019年 3月3日～27日	東京都 国立劇場小劇場	国立劇場	400年以上にわたって伝承されてきた「歌舞伎」は、日本の自然や四季の景観を演出の中に巧みに織り交ぜ、日本独特の様式美によって表現する舞台芸術である。今回は、開催時期に合わせて、日本の“国花”である「桜」が重要な役割を果たす作品を選定し、日本人と「桜」との深い繋がりを提示する。
舞台芸術	森山開次「NINJA」	2019年 5月～6月	東京都 新国立劇場 オペラ劇場	（公財）新国立劇場運営財団	国際的に活躍の場をひろげている日本人ダンサー/振付家の森山開次の新作ダンス「NINJA」を制作・上演し、日本人の現代舞踊における美意識を表現。忍者を題材とした新作ダンスの上演により、国内外の幅広い人々が日本の美を体感できる機会とする。
舞台芸術	「和楽の美 ～大江戸傾屏風～（仮称）」	2019年 9月12日	東京藝術大学 美術館	東京藝術大学	「和楽の美」公演は音楽・美術両学部を持つ東京藝術大学ならではの特徴を最大限に発揮した公演です。音楽学部邦楽科を中心とした演奏が、美術学部教授が手がける舞台空間の中で繰り広げられます。今年は2015年の『ヒミコ』からスタートした「日本音楽の歴史をたどる」シリーズの5年目で、日本を代表する伝統文化である歌舞伎や文楽などの芸術が華開いた、江戸元禄時代にスポットを当てます。そして来年、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、「世界の平和」をテーマに本シリーズの完結を目指しています。

主な分野	事業（プログラム）名	開催時期	開催地	共催・協力機関等	概要（趣旨及び内容）
舞台芸術	「檜男」 「春夏秋冬」	2019年6月22日・23日	国立劇場小劇場	日本舞踊協会	幅広い観客層が楽しめる舞踊として、ピノキオの物語が新作舞踊として甦る「檜男＝びのきお＝」を上演するとともに、古来より日本人の心に大切に受け継がれてきた四季をテーマに、舞と踊りで綴る舞踊絵巻「春夏秋冬」を上演する。
美術・文化財	「平成31年春の特別展 江戸時代の天皇」	2019年4月6日～5月12日	国立公文書館	国立公文書館	<p>本展では、天皇陛下の御退位と皇太子殿下の御即位を記念し、江戸時代の天皇・朝廷、江戸時代の元号選定・改元等について、国立公文書館の所蔵資料により紹介する。</p> <p>日本の文化に大きく関わる天皇の歴史について紹介する本展では、江戸時代における「日本の美」を色彩豊かに表現した絵巻など、多くの歴史資料を展示予定。</p> <p>主な展示資料は次のとおり。</p> <p>「桜町殿行幸図」</p> <p>文化14年（1817）3月22日、光格天皇が禁裏御所を出て、上皇の御所である「桜町殿」へ向かう行幸の行列を描いた、上下巻あわせて全長約45メートルに及ぶ長大な絵巻。天皇の乗物である「鳳輦」や、行列見物の人々、京都所司代による警護の様子などが描かれており、江戸時代における「日本の美」が色彩豊かに表現されている。</p> <p>「礼儀類典」</p> <p>常陸水戸藩主徳川光圀が「大日本史」編纂の過程で、朝廷古来の行事や儀式（朝儀）が衰退している状況を憂慮し、編纂させた書。特別展では、天皇の玉座である高御座を展示。</p> <p>「公武御用日記」</p> <p>特別展では、文化14年（1817）から天保2年（1831）まで武家伝奏を勤めた広橋胤定の公武御用日記を展示。</p> <p>展示期間中、あわせて記念講演会を予定。</p>